

第 69 号

オリガミアンだより

2022 年 5 月 1 日発行

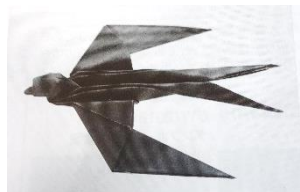
5月のテーマは「ツバメ」

折り方誌上講習

「ツバメ」 考案者：奥田 光雄さん 月刊誌『おりがみ』

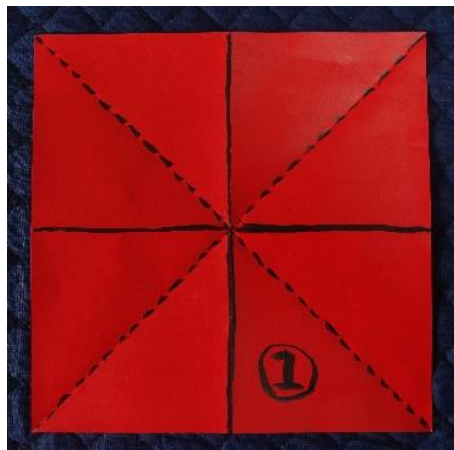
No. 561 (2022 年 5 月号) から引用

GWも関係なくエ
サやりの順番を待
つ親鳥



金たまごはやがてこんな鳥に？

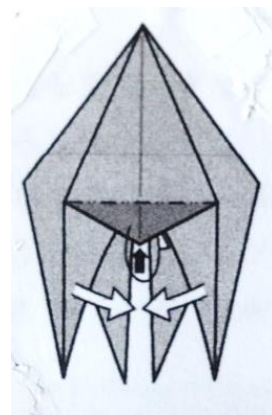
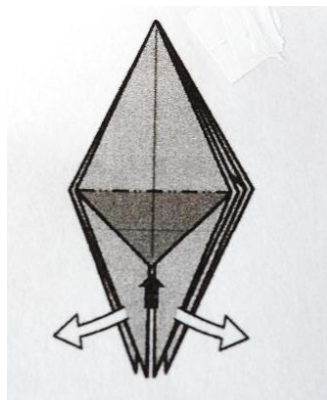
新緑の美しい季節が近づいています。あちこちでツバメたちが巣を作り、子育てに懸命です。5月10日からは愛鳥週間。これにちなんで5月の教材「ツバメ」の折り方をご紹介します。紙を折り重ねてだんだん厚くなって行くので余分な紙が見えないように各工程ごとにきちんと折ることが極めて大切です。途中まではカニの折り工程（「オリガミアンだより」第 19 号 2020 年 8 月 2 日発行）と同じです。見比べてみましょう。



練習では 24 ㌔角、慣れたら 15 ㌔角の紙を使うと良いでしょう。

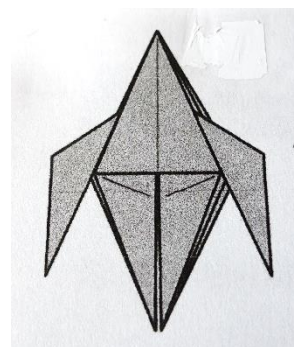
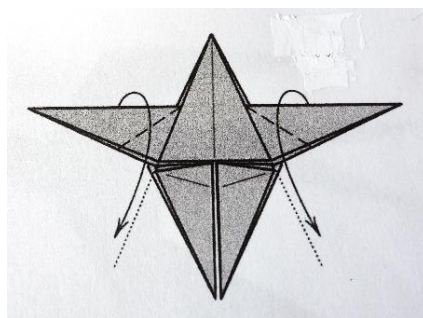
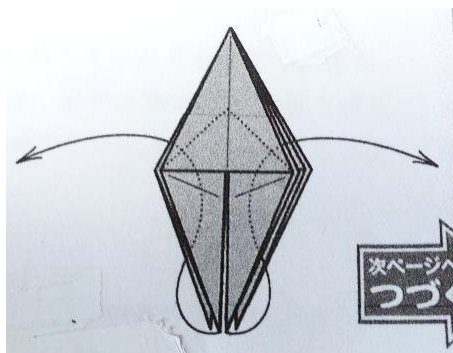
- ① のように折って谷折れ線を押さえれば④が得られるので②、③は省略
- ④の対角線を立て、指を差入れ⑤の形にする。
- ⑥裏側もおなじように折る。





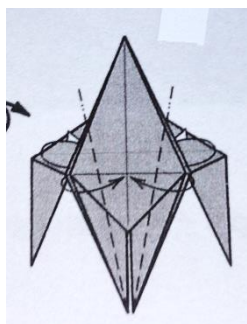
真ん中の三角形の部分を全て下側へ折り返す

下側へ折り返した真ん中の三角形の部分を内側に折り込む。
図の矢印よりもっと先端をつまむとやりやすい

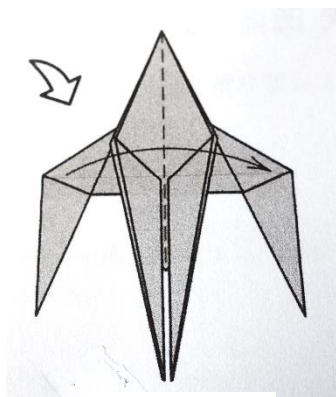


一番上の部分を中割れ折り一番上まで折ると両翼の上のラインが一直線になる

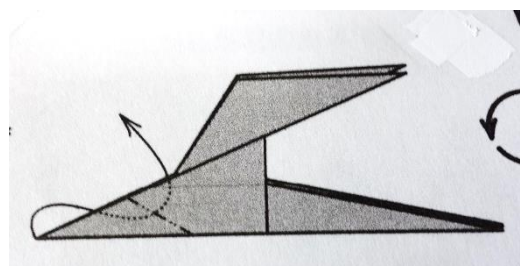
裏返す



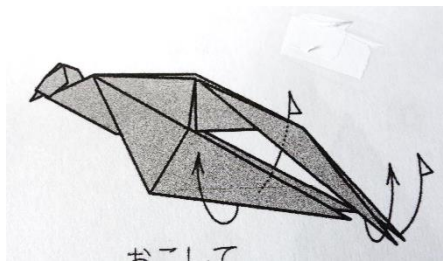
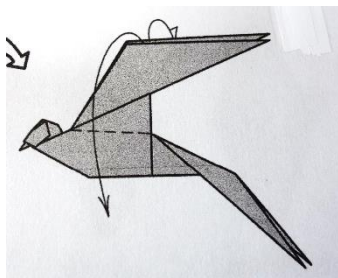
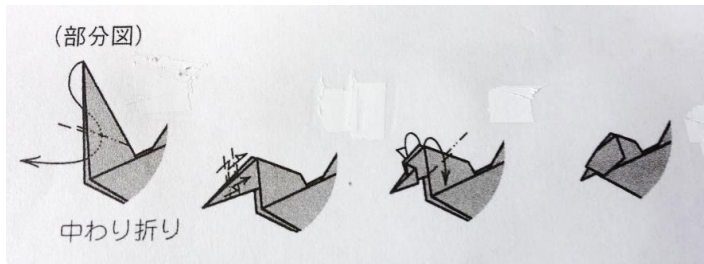
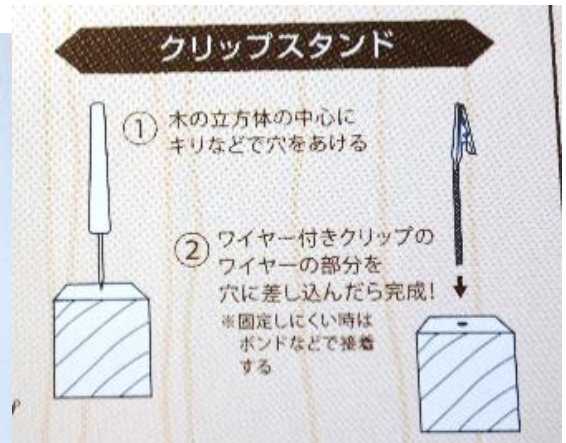
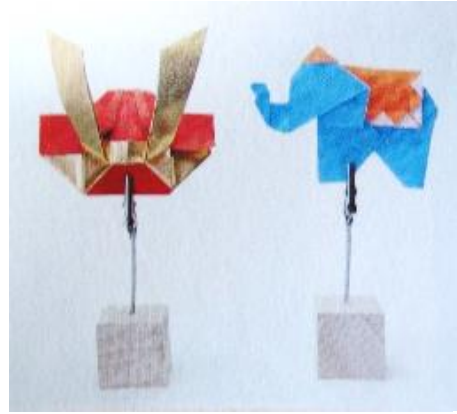
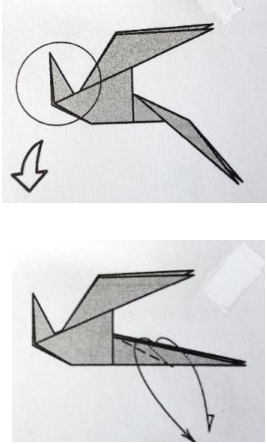
尾の部分を点線のように折る。余分な部分が見えないようしっかり折る



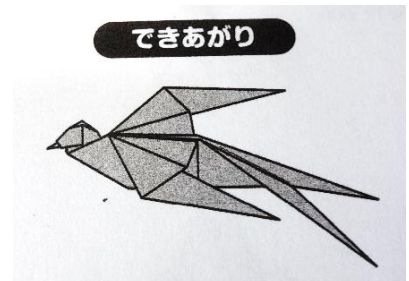
縦半分に畳む



頭の部分を作っていく。上部は平らに。形は五角形にするつもりで



できあがり



ツバメの壻入り

今年、生まれた若鳥たちは数千羽から数万羽単位で一緒に行動する。8月になると加古川の河口や三木市的美囊川など葦原のある場所に集結。昼間は渡りに備えてエサを摂り、日没前 30 分くらいになると一斉に葦原に飛び込む。葦の葉にぶら下がりながら“おしゃべり”して眠りにつくが、この壮観が「ツバメの壻（ねぐら）入り」と言われ、愛鳥家たちに親しまれている。

彼らは若鳥だけで南の国へ渡っていくが、なぜ、こんなことが可能か。研究の結果、星の運行を見て現在位置を瞬時に割り出すなど人間の計り知れぬ途方もない能力を持っていることが分かっている。翌年、同じツバメがピンポイントで同じ場所に帰ってくることが出来るのもこのせいだ。

ツバメの歌

煌く水面の上を
夢中で風切り翔（かけ）る
翼をはためかせて
あの街へ行こう
海を越えて
僕はそう小さなツバメ
辿り着いた街で触れた
楽しそうな人の声
悲しみに暮れる仲間の声

5月の例会は10日と24日です。いつもの月と違いますので、ご注意を。

編集：オリガミアン代表・熊谷信哉